

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター

病害虫防除所長
(公印省略)

平成 2 4 年度農作物病害虫発生予察情報について

平成 2 4 年度農作物病害虫発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

平成 2 4 年度農作物病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成 2 4 年 7 月 2 7 日

徳 島 県

1 病害虫名及び病原名：キジラミ科リンゴキジラミ属の一種（仮称：ビワキジラミ）

Cacopsylla sp.

2 発生作物：ビワ

3 発生地域：徳島市、小松島市、阿南市、勝浦町、佐那河内村

4 発生の経過

平成 2 4 年 5 月に徳島県勝浦郡勝浦町で栽培されているビワについてすす病の症状が発生した（写真 1, 2）。これらの枝および葉にはキジラミ類と思われる幼虫と成虫が寄生していた。

そこで、これらの虫について独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所 井上広光主任研究員に同定を依頼したところ、キジラミ科Psyllidae リンゴキジラミ属の一種*Cacopsylla* sp. であることが判明した。既知の日本産キジラミ類には該当する種はなく、現時点では学名未決定である。

なお、ビワにおけるキジラミ類の寄生および被害は我が国においてこれまで確認されていなかった。発生状況について、5 月下旬～6 月上旬に調査したところ、上記 3 の発生地域で発生が確認された。

5 形 態

成虫の全長（頭頂から前翅端まで）は 2.3～3.0mm、体色は淡黄褐色で、胸部に多数の白色縦条がある。腹部はときに薄緑色を帯びる。前翅は透明で、後縁に沿って黄褐色の斑紋を有する（写真 4, 5）。

幼虫は扁平、体色は淡い黄褐色～黄緑色で、腹部の一部や翅芽などが褐色である（写真 3）。

6 生 態

5～6 月には若齢～終齢幼虫と成虫が見られた。幼虫は果梗や新梢の枝部、芽鱗の下などの隙間に多く寄生していた。成虫は主に葉裏の葉脈（特に主脈）に沿って寄生する。越冬態や年発生回数等の

生態については不明である。

7 被害

幼虫が寄生した果梗や新梢の枝部およびその周辺に排泄物（甘露）が付着し、これにすす病が発生する。なお、少発生樹ではすす病は目立たない。

8 防除対策

葉裏に寄生した成虫やすす病の発生を目印として、早期発見に努める。寄生が確認された部位は取り除き、本種の分散防止を図るとともに、園外の土中に埋める等適切に処分する。

なお、アブラムシ類、またはカメムシ類の防除を適切に実施している園地では、本種の発生も少ない。



写真1 多発生樹でのすす病(新梢)



写真2 多発生樹でのすす病(果実および果梗)



写真3 幼虫(腹部後方から白いう物質を排出)



写真4 雌成虫



写真5 多発生樹における成虫の集団

注：写真3, 4, 5は(独法)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所 井上広光主任研究員提供

6. 参考情報

本種の形態的特徴や生態等については、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所カンキツ研究領域 井上広光主任研究員からの情報を参考とした。